

校異源氏物語・かけろふ

かしこには人々おはせぬをもとめさはけとかひなし物かたりのひめ君の人にぬすまれたらむあしたの様なれはくはしくもいひつゝけす京よりありしつかひのかへらすなりにしかはおほつかなしとてまた人おこせたりまたとりのなくなになむいたしたてさせ給へるとつかひのいふにいかనికిこえんとめのとよりはしめてあはてまどふことかきりなし思ひやるかたなくてたゝさはきあへるをかの心しれるとちなんいみしく物をおもひ給へりしさを思ひ出るに身をなけたまへるかとはおもひよりけるなくくこのふみをあけたれはいとおほつかなさにとろまれ侍らぬけにやこよひは夢にたにうちとけてもみえす物におそはれつゝ心地もれいならすうたて侍るを猶いとおそろしくものへわたらせ給はん事はちかゝなれとその程こゝにむかへたてまつりてむけふはあめふり侍ぬへければなとありよへの御かへりをもあけてみて右近いみしうなくされはよ心ほそきことはきこえ給けり我になとかいさゝかの給ことのなかりけむをさなりし程よりつゆ心をかたてまつる事なくちりはかりへたてなくてならひたるにいまはかきりのみちにしも我をゝくらかしけしきをたにみせたまはさりけるかつらき事とおもふにあしすりといふ事をしてなくさまわかきことのやうなりいみしくおほしたる御けしきはみたてまつりわたれとかけてもかくなへてならすおとろくしきことおほしよらむものとはみえさりつる人の御心さまを猶いかにしつる事にかとおほつかなくいみしめの中く物もおほえてたゝいかさまにせむいかさまにせんとそいはれける宮にもいとれいならぬけしきありし御かへりいかに思ならん我をさすかにあひ思たるさまなからあたなる心なりとのみふかくうたかひたれはほかへいきかくれんとにやあらむとおほしさはき御つかひありあるかきりなきまどふ程にきて御ふみもえたてまつらういかなるそとけす女にとへはうへのこよひにはかにうせ給にければ物もおほえ給はすたのもしき人もおはしまさぬおりなれはさふらひ給人くはたゝものにあたりてなむまとひ給といふ心もふかくしらぬをのこにてくはしうとはてまいりぬかくなんと申させたるに夢とおほえていとあやしいたくわつらふともきかすひころなやましとのみありしかときのかへりことはさりけもなくてつねよりもおかしけなり

し物をとおほしやるかたなければときかたいきてけしきみたしかなる事とひき
けとの給へはかの大將殿いかなることかき、給事侍けんとゐるものをろか
なりなといましめおほせらるゝとて下人のまかりいつるをもみとかめとひはへ
るなれはことつくることなくてときかたまかりたらんをものゝきこえ侍らはお
ほしあはすることなどや侍らむさてにはかに人のうせ給へらん所はろなうさは
かしう人しけく侍らむをときこゆさりとてはいとおほつかなくてやあらむ猶と
かくさるへきさまにかまへてれいの心しれるしゝうなどにあひていかなること
をかくいふそとあないせよけすはひかこともいふなりとの給へはいとおしき御
けしきもかたしけなくてゆふつかたゆくかやすき人はとくいきつきぬあめすこ
しふりやみたれとわりなき道にやつれてけすのさまにてきたれは人おほくたち
さはきてこよひやかておさめたてまつるなりなといふをきく心ちもあさましく
おほゆ右近にせうそこしたれともえあはすたゝいまものおほえすおきあからん
心地もせてなむさるはこよひはかりこそかくもたちより給はめえきこえぬ事と
いはせたりさりとてかくおほつかなくてはいかゝかへりまいり侍らむいまひと
ゝころたにとせちにひたれはしゝうそあひたりけるいとあさましおほしもあ
へぬさまにてうせ給にたれはいみしといふにもあかすゆめのやうにてたれも
くゝまとひ侍よしを申させ給へすこしも心地のとめ侍てなむひころもゝのおほ
したりつるさまひとよいと心くるしとおもひきこえさせ給へりしありさまなど
もきこえさせ侍へきこのけからひなと人のいみはへるほどすくしていまひとた
ひたちより給へといひてなくこといといみしうちにもなくこゑくゝのみしてめ
のとなるへしあかきみやいつかたにかおはしましぬるかへり給へむなしきから
をたにみたてまつらぬかゝひなくかなしくもあるかなあけくれみたてまつりて
もあかすおほえ給ひいつしかゝひある御さまをみたてまつらむとあしたゆふへ
にたのみきこえつるにこそいのちものひ侍つれうちすて給ひてかくゆくゑもし
らせ給はぬ事おにかみもあかきみをはえりやうしたてまつらし人のいみしくお
しむ人をはたいしやくもかへし給なりあか君をとりたてまつりたらむ人にまれ
おにゝまれかへしたてまつれなき御からをもみたてまつらんといひつゝくるか
心えぬことゝもましるをあやしと思ひて猶の給へもし人のかくしきこえ給へる
かたしかにきこしめさんと御身のかはりにいたしたてさせ給へる御つかひなり
いまはともかくてもかかひなきことなれとのちにもきこしめしあはすることの
侍らんにたかふことましらはまいりたらむ御つかひのつみなるへしまたさりと
もとたのませ給て君たちにたいめんせよとおほせられつる御心はえもかたしけ

なしとはおほされすやをんなのみちにまとひ給ことは人のみかともふるきためしともありけれとまたかゝることこのよにはあらしとなんみたてまつるといふにけにいとあはれる御つかひにこそあれかくすともかくてれいならぬことのさまをのつからきこえなむと思ひてなとかいさゝかにても人やかくひたてまつり給らんと思よるへきことあらむにはかくしもあるかきりまとひ侍らむひころいといみしくものをおほしいるめりしかはかのとのゝわつらはしけにほのめかしきこえ給ことなともありき御ははにものし給人もかくのゝしるめのとなともはしめよりしりそめたりしかたにわたり給はんとなんいそきたちてこの御事をは人しれぬさまにのみかたしけなくあはれと思ひきえさせ給へりしに御心みたれけるなるへしあさましう心とみをなくなし給へるやうなれはかく心のまとひにひかくしくいひつゝけらるゝなめりとさすかにまほならすほのめかす心えかたくおほえてさらはのとかにまいらむたちなから侍もいとことそきたるやうなりいま御身つからもおはしましなんといへはあなかたしけないまさら人のしりきこえさせむもなき御ためは中／＼めてたき御すくせみゆへき事なれとしのひ給しことなれはまたもらさせ給はてやませ給はむなん御心さしに侍へきこゝにはかくよつかすうせ給へるよしを人にきかせしとよろつにまきはすをしねんにこととものけしきもこそみゆれとおもへはかくそゝのかしやりつあめのいみしかりつるまきれにはゝ君もわたり給へりさらにいはむかたもなくめのまへになくなしたらむかなしさはいみしうともよのつねにてたくひあることなりこれはいかにしつる事そとまとふかゝる事とものまきれありていみしうもの思ひ給らんともしらねは身をなけ給へらんともおもひもよらすおにやくひつらんきつねめくものやとりもていぬらんとむかしものかたりのあやしきものゝことのたとひにかさやうなる事もいふなりしと思ひいつさてはかのおそろしと思きこゆるあたりに心なとあしき御めのとやうのものやかうむかへ給へしときゝてめさましかりてたはかりたる人もやあらむとけすなとをうたかひいままいりの心しらぬやあるとゝへはいとよはなれたりとてありならはぬ人はこゝにてはかなきこともえせすいとくまいらむといひてなむみなそのいそくへきものともなとりくしつゝ返いて侍にしとてもとよりある人たにかたへはなくていと人すくなゝるおりになんありけるしゝうなとこそひころの御けしきおもひいて身をうしなひてはやなとなきいり給ひしおり／＼のありさまかきをき給へるふみをもみるになきかけにとかきすさひ給へるものゝすゝりのしたにありけるをみつてかほのかたをみやりつゝひゝきのゝしる水のをとをきくにもうと

ましくかなしとおもひつゝさてうせ給けむ人をとかくいひさはきていつくにもくゝいかなるかたになり給にけむとおほしうたかはんもいとおしきことゝいひあはせてしのひたる事とても御心よりおこりてありし事ならすおやにてなきのちにきゝ給へりともいとやさしき程ならぬをありのまゝにきこえてかくいみしくおほつかなきことゝもをさへかたゝ思ひまとひ給さまはすこしあきらめさせたまつらんなく給へる人とてもからをゝきてもてあつかふこそよのつねなれよつかぬけしきにてひころもへはさらにかくれあらし猶きこえていまはよのきこえをたにつくろはむとかたらひてしのひてありしさをきこゆるにいふ人もきえいりえいひやらすきく心地もまとひつゝさはこのいとあらましとおもふかはになかれうせ給にけりと思ふにいとゝ我もおちいりぬへき心地しておはしましにけむかたをたつねてからをたにはかゝしくをさめむとの給へとさらになにのかひ侍らし行衛もしらぬおほうみのほらにこそおはしましにけめさるものから人のいひつたへん事はいときゝにくしときこゆれはとさまかくさまに思ふにむねのせきのほる心地していかにもくゝすへきかたもおほえ給はぬをこの人ゝふたりして車よせさせておましともけちかうつかひ給し御てうともみななからぬきをき給へる御ふすまなとやうのものをとりいれてめのとこのたいとくそれかおちのあさりそのてしのむつましきなともとよりしりたるおいほうしなど御いみにこもるへきかきりして人のなくなりたるけはひにまねひていたしたつるをめのとはゝ君はいといみしくゆゝしとふしまろふ大夫うとねりなとおとしきこえしものともゝまいりて御さうその事はとのに事のよしも申させ給て日さためられいかめしうこそつかうまつらめなといひけれとことさらによひすくすまいとしのひてと思やうあればなんとてこの車をむかひの山のまへなるはらにやりて人もちかうもよせすこのあないしりたるほうしのかきりしてやかすいとはかなくてけふりはゝてぬる中人ともは中なかゝる事をことゝしくしなしこといみなとふかくするものなりければいとあやしうれいのさほうなどあることゝもしらすけすけすしくあへなくてせられぬる事かなとそしりければかたへおはする人はことさらにかくなむ京の人はし給なとそさままになんやすからすいひけるかゝる人ともいひ思ふことたにつゝましきをましてものゝきこえかくれなき世の中に大將殿わたりにからもなくうせ給にけりときかせ給はゝかならずおもほしうたかふこともあらむを宮はたおなし御なからひにてさる人のおはしおはせずしはしこそしのふともおほさめつゐにはかくれあらしまたさためて宮をしようたかひきこえ給はしいかなる人かゐてかくしけん

とそおほしよせむかしいき給ての御すくせはいとけたかくおはせし人のけにな
きかけにいみしきことをやうたかはれ給はんとおもへはこゝのうちなるしも人
ともにもけさのあはたゝしかりつるまとひにけしきもみきゝつるにはくちかた
めあないしらぬにはきかせしなとそたはかりけるなからへてはたれにもしつや
かにありしさまをもきこえてんたゝいまはかなしさゝめぬへきことふと人つて
にきこしめさむは猶いとゝおしかるへきことなるへしとこの人ふたりそふか
く心のおにそひたれはもてかくしける大將殿はにうたうの宮のなやみ給ければ
いし山にこもり給てさはき給ころなりけりさていとゝかしこをおほつかなうお
ほしけれとはかゝしうさなむといふ人はなかりければかゝるいみしきことに
もまつ御つかひのなきを人めも心うしと思にみさうの人なんまいりてしかゝ
と申させければあさましき心ちし給て御つかひそのまたの日またつとめてまい
りたりいみしきことはきくまゝに身つからものすへきになくなやみ給御事によ
りつゝしみてかゝるところに日をかきりてこもりたれはなむよへのことはなと
かこゝにせうそして日をのへてもさる事はする物をいとからかなるさまに
ていそぎせられにけるとてもかくてもおなしいふかひなさなれととちめの事を
しもやまかつのそしりをさへおふなむこゝのためもからきなどかのむつましき
おほくらの大輔しての給へり御つかひのきたるにつけてもいとゝいみしきにき
こえんかたなきことゝもなれはたゝなみたにおほゝれたるはかりをかことにて
はかゝしうもいらへやらすなりぬとの猶いとあへなくいみしときゝ給にも
心うかりけるところかなおになとやすむらむなとていまゝてざるところにすへ
たりつらむ思はすなるすちのまきれあるやうなりしもかくはなちをきたるに心
やすくて人もいひをかし給なりけむかしと思にもわかたゆくよつかぬ心のみく
やすく御むねいたくおほえ給なやませ給あたりにかゝる事おほしみたるゝもう
たてあれば京におはしぬ宮の御かたにもわたり給はすことゝしきほとにも侍
らねとゆゝしき事をちかうきゝつれば心のみたれ侍ほともいまいましてなと
きこえ給てつきせすはなくいみしきよをなけき給ありしさまかたちいとい
きやうつきおかしかりしけはひなどのいみしく恋しくかなしければうつゝの世
にはなとかくしも思はれすのとかにてすくしけむたゝいまはさらに思ひしつめ
んかたなきまゝにくやしきことのかすしらすかゝることのすちにつけていみし
うものすへきすぐせなりけりさまことに心さしたりし身の思のほかにかくれい
の人にてなからふるをほとけなとのにくしとみ給にや人の心をおこさせむとて
ほとけのし給はうへむは慈悲をもかくしてかやうにこそはあなれと思つゝけ給

つゝをこなひをのみし給かの宮はたまして二三日は物もおほえ給はすうつし心もなきさまにていかなる御物のけならんなどさばくにやうやうなみたつくし給ておほししつまるにしもそありしさまは恋しういみしく思ひいてられ給ける人にはたゝおほむやまいのをもきさまをのみゝせてかくすそなるいやめのけしきしらせしとかしくもてかくすとおほしけれとをのつからいとしるかりけはいかなることにかくおほしまとひ御いのちもあやうきまでしつみ給らんといふ人もありければかのどのにもいとよくこの御けしきをきゝ給にされはよなをよそのふみかよはしのみにはあらぬなりけりみ給てはかならずさおほしぬへかりし人そかしなからへましかはたゝなるよりそ我ためにおこなる事もいてきなましとおほすになむこかるゝむねもすこしさむる心ちし給ける宮の御とふらひに日々にまいり給はぬ人なくよのさはきとなれるころことゝしききはならぬ思にこもりゐてまいらさらんもひかみたるへしとおほしてまいり給そのころ式部卿宮ときこゆるもうせ給にければおほんをちのふくにてうすにひなるも心のうちにあはれに思ひよそへられてつきつきしくみゆすこしおもやせていとゝなまめかしきことまさり給へり人ゝまかりいてゝしめやかなるゆふくれなり宮ふししつみてはなき御心ちなれはうとき人にこそあひ給はねみすのうちにまれいゝり給人にはたいめんし給はすもあらずみえ給はむもあひなくつゝましみ給につけてもいとゝなみたのまつせきかたさをおほせとおもひしつめておとろゝしき心ちにも侍らぬをみな人つゝしむへきやまるのさまなりとのみものすれはうちにも宮にもおほしさはくかいとくるしくけによの中をつねなきをも心ほそくおもひ侍との給ておしのかひまきはし給とおほす涙のやかてとゝこほらすふりおつれはいとはしたなけれとかならずしもいかてか心えんたゝめゝしく心よはきとやみゆらんとおほすもさりやたゝこの事をのみおほすなりけりいつよりなりけむ我をいかにおかしとのわらひし給心地に月ころおほしわたりつらむと思にこの君はかなしさはわすれ給へるをこよなくもをろかなるかなものゝせちにおほゆるときはいとかならぬ事につけてたに空とふとりのなきわたるにももよをされてこそかなしけれわかかくす所に心よはきにつけてももし心えたらむにさいふはかりものゝあはれもしらぬ人にもあらずよの中のつねなき事おしみておもへる人しもつれなきとوراやましくも心にくゝもおほさるゝ物からまきはしらはあはれなりこれにむかひたらむさまもおほしやるにかたみそかしともうちまもり給やうゝよの物かたりきこえ給にいとこめてしもはあらしとおほしてむかしより心にこめてしはしもきこえさせぬことのこし侍かきりは

いといふせくのみ思ひ給へられしをいまは中／＼上らうになりにて侍りまして御いとまなき御ありさまにて心のとかにおはしますおりも侍らねはとのゐなとにその事となくてはえさふらはすそこはかなくてすくし侍をなんむかし御らんせし山さとははかなくてうせ侍にし人のおなしゆかりなる人おほえぬところに侍るとき、つけ侍りるとき／＼さてみつへくやと思給へしにあいなく人のそしりも侍りぬへかりしおりなりしかはこのあやしき所にきて侍しをおさ／＼まかりてみる事もなく又かれもなにかしひとりをあひたのむ心もことになくてやありけむとはみ給つれとやむことなくもの／＼しきすちに思給へはこそあらめみるにはたことなるとかも侍らすなとして心やすくらうたしと思給へつる人のいとはかなくてなくなり侍にけるなへてよのありさまをおもひ給つ、け侍にかなしくなんきこしめすやうも侍るらむかしとていまそなき給これまいとかうはみえたてまつらしおこなりと思ひつれとこほれそめてはいと、めかたしけしきのいさ、かみたりかほなるをあやしきとおしとおほせとつれなくていとあはれなることにこそきのふほのかにき、侍きいかにともきこゆへく思侍なからわさと人にきかせ給はぬ事とき、侍しかはなむとつれなくの給へといとたへかたければことすくなにておはしますさるかたにても御らむせさせはやと思給へりし人になんをのつからさもや侍けむ宮にもまいりかよふへきゆへ侍しかはなとすこしつ、けしきはみて御心ちれいなぬほとはすそなるよのこときこしめしいれ御み、おとろくもあいなきことになむよくつ、しませおはしませなときこえをきていて給ぬいみしくもおほしたりつるかないとはかなかりけれとさすかにたかき人のすくせなりけりたうしのみかときさきのさはかりかしつきたてまつり給みこかほかたちよりはしめてた、いまのよにはたくひおはせさめりみ給人とてもなのめならすさま／＼につけてかきりなき人を、きてこれに御心をつくしよの人たちさはきてすほうと経まつりはらへとみち／＼にさはくはこの人をおほすゆかりの御心地のあやまりにこそはありけれわれもかはかりの身にて時のみかとの御むすめをもちたてまつりなからこの人のらうたくおほゆるかたはをとりやはしつるましていまはおほゆるには心をとめんかたなくもあるかなさるはおこなりか、らしと思しのふれとさま／＼に思ひみたれて人木石にあらされはみななさけありとうちすうしてふし給へりのちのした、めなともいとはかなくしてけるを宮にもいか、き、給らむといとおしくあへなくははのなを／＼しくてはらからあるはなとさやうの人はいふ事あんなるを思てことそくなりけんかしなと心つきなくおほすおほつかなさもかきりなきをあり

けむさまも身つからきかまほしとおほせとなかこもりし給はむもひんないき
といきてたちかへらむも心くるしなとおほしわつらふ月たちてけふそわたらま
しとおほしいて給日の夕暮いともあはれなりおまへちかきたちはなのかのな
つかしきにほとゝきすのふたこゑはかりなきてわたるやとにかよはゝとひとり
こち給もあかねはきたの宮にこゝにわたり給日なりければ立花をおらせてきこ
え賜

しのひねや君もなくらむかひもなきしてのたおさに心かよはゝ宮は女君の

御さまのいとおよくにたるをあはれとおほしてふたところなかめ給おりなりけり
けしきある文かなとみ給て

たちはなのかほるあたりは郭公心してこそなくへかりけれわつらはしとか
き給女君このことのけしきはみなみしり給てけりあはれにあさましきはかなさ
のさまゝにつけて心ふかきなかにわれひとりもの思しらねはいまゝてなから
ふるにやそれもいつまでと心ほそくおほす宮もかくれなきものからへたて給も
いと心くるしければありしさまなとすこしはとりなをしつゝかたりきこえ給か
くし給しかつらかりしなとなきみわらひみきこえ給にもこと人よりはむつまし
くあはれなりことゝしくうるはしくてれいならぬ御事のさまもおとろきま
ひ給所にては御とふらひの人しけくちゝおとゝせうとの君たちひまなきもいと
うるさきにこゝはいと心やすくてなつかしくそおほされけると夢のやうにの
み猶いかていとはかなりけることにかはとのみいふせければれいの人ゝめし
て右近をむかへにつかはすはゝ君もさらにこの水のをとけはひをきくにわれも
まろひいりぬへくかなしく心うきことのとまるへくもあらねはいとわひしうて
かへり給ひにけり念仏のそうともをたのもしきものにていとかなるにいり
きたれはことゝしくにはかにたちめくりしとのゑ人ともゝみとかめすあやに
くにかきりのたひしもいれたてまつらすなりにしよと思いつるもいとおしさる
ましきことをおもほしこかるゝことゝみくるしくみたてまつれとこゝにきては
おはしましゝよなゝのありさまいたかれたてまつり給てふねにのり給しけは
ひのあてにうつくしかりしことなどを思出るに心つよき人なくあはれなり右近
あひていみしうなくもことほりなりかくの給はせて御つかひになむまいりつる
といへはいまさらに人もあやしといひ思はむもつゝましくまいりてもはかゝ
しくきこしめしあきらむはかりものきこえさすへき心ちもし侍らすこの御いみ
はてゝあからさまにもなんと人にいひなさんすこしにつかはしかりぬへき
程になしてこそ心よりほかのいのち侍らはいさゝか思ひしつまらむおりになん

おほせ事なくともまいりてけにいと夢のやうなりしことゝももかたりきこえ
まほしきといひてけふはうこくへくもあらず大夫もなきてさらにこの御中の
ことこまかにしりきこえさせ侍らす物の心しり侍すなからたくひなき御心さ
しをみたてまつり侍しかは君たちをものなにかはいそきてしもきこえうけ給は
らむつるにはつかうまつるへきあたりにこそと思給へしをいふかひなくかな
しき御事のゝちはわたくしの御心さしも中／＼ふかさまさりてなむとかたら
ふわさと御車などおほしめくらしてたてまつれ給へるをむなしくてはいとく
おしうなむいまひとゝころにてもまいり給へといへはしゝうの君よひいてゝさ
はまいり給へといへはましてなに事をかはきこえさせむさても猶この御いみの
程にはいかてかいませ給はぬかといへはなやませ給御ひゝきにさま／＼の御つ
ゝしみともはへめれといみあへさせ給ましき御けしきになんまたかくふかき御
ちきりにてはこもらせ給てもこそおはしまさめのこりの日いくはくならず猶ひ
とゝころまいり給へとせむれはしゝうそありし御さまもいと恋しう思きこゆる
にいかならむよにかはみたてまつらむかゝるおりにと思ひなしてまいりけるく
ろききぬともきてひきつくろひたるかたちもいときよけなりもはたゝいまわれ
よりかみなる人なきにうちたゆみて色もかへさりければうすいろなるをもたせ
てまいるおはせましかはこのみちにそしのひていて給はまし人しれす心よせき
こえしものをなと思にもあはれなりみちすからなく／＼なむきける宮はこの人
まいれりときこしめすもあはれなり女君にはあまりうたてあれはきこえ給はす
しむてんにおはしましてわたのにおろし給へりありけんさまなとくはしう
とはせ給にひころおほしなけしさまそのよなき給しさまあやしきまでことす
くなにおほおほとのみものし給ていみしとおほすことをも人にうちいて給事は
かたくものつゝみをのみし給ひしけにやの給ひをくことも侍らす夢にもかく心
つよきさまにおほしかくらむとはおもひ給へすなむ侍しなとくはしうきこゆれ
はましていといみしうさるへきにてもともかくもあらましよりもいかばかりも
のを思ひたちてさる水におほれけんとおほしやるにこれをつけてせきとめた
らましかはとわきかへる心地し給へとかひなし御文をやきうしなひ給しなど
なとてめをたて侍らさりけんなどよ一よかたらひ給にきこえあかすかの巻数に
かきつけ給へりしはゝ君の返ことなどをきこゆなにはかりのものとも御らんせ
さりし人もむつましくあはれにおほさるれば我もとにあれかしあなたもゝては
なるへくやはとの給へはさてさふらはんにつけてももののみかなしからんを思
給へれはいまこの御はてなとすくしてときこゆ又もまいれなとこの人をさへあ

かすおほすあか月かへるにかの御れうにとてまうけさせ給けるくしのはこひと
よろひころもはこひとよろひをくり物にせさせ給さまくゝにせさせ給ことはお
ほかりけれとおとろくゝしかりぬへければたゝこの人におほせたる程なりけり
なに心もなくまいりてかゝることものあるを人はいかゝみんすゝろにむつか
しきわさかなと思ひわふれといかゝはきこえかへさむうこんとふたりしのひて
みつゝつれくゝなるまゝにこまかにいまめかしうしあつめたることゝもをみて
もいみしうなくさうそくもいとうるはしうしあつめたる物ともなれはかゝる御
ふくにこれをはいかてかかくさむなともてわつらひける大將殿も猶いとおほつ
かなきにおほしあまりておはしたりみちの程よりむかしのことゝもかきあつめ
つゝいかなるちきりにてこのちゝみこの御もとにきそめけむかゝる思ひかけぬ
はてまで思あつかひこのゆかりにつけては物をのみ思よいとたうとくおはせし
あたりにほとけをしるへにてのちのよをのみちきりしに心きたなきすゑのたか
ひめに思しらするなめりとそおほゆる右近めしいてゝありけんさまはかくゝ
しうきかす猶つきせすあさましうはかなければいみののこりもすくなくなりぬ
すくしてと思ひつれとしつめあへすものしつるなりいかなる心ちにてかはかな
くなり給にしとゝひ給にあま君などもけしきはみてければつるにきゝあはせ給
はんを中くゝかくしてもことたかひてきこえんにそこなはれぬへしあやしきこ
とのすちにこそそらことも思めくらしつゝならひしかかくまめやかなる御けし
きにさしむかひきこえてはかねてといはむかくいはむとまうけしことはをもわ
すれわつらはしうおほえければありしさまのことゝもをきこえつあさましうお
ほしかけぬすちなるに物もとばかりの給はすさらにあらしとおほゆるかななへ
ての人の思いふことをもこよなくことすくなにおほとかなりし人はいかてかさ
るおとろくゝしきことは思たつへきそいかなるさまにこの人ゝもてなしてい
ふにかと御心もみたれまさり給へと宮もおほしなけきたるけしきとしるし
ことのありさまもしかつれなしつくりたらむけはひはをのつからみえぬへき
をかくおはしましたるにつけてもかなしくいみしきことをかみしもの人つとひ
てなきさはくをときゝ給へは御ともにくしてうせたる人やある猶ありけんさま
をたしかにいへわれをゝろかなりと思てそむき給ことはよもあらしとなむ思ふ
いかやうなるたちまちにいひしらぬことありてかざるわさはし給はむわれなむ
えしむすましきとの給へはいとゝしくされはよとわつらはしくてをのつから
きこしめしけむもとよりおほすさまならておいいて給へりし人のよはなれた
る御すまいののちはいつとなく物をのみおほすめりしかとたまさかにもかくわ

たりおはしますをまちきこえさせ給にもとよりの御身のなけきをさへなくさめ給つゝ心のとかなるさまにてときくもみたてまつらせ給へきやうにはいつしかとのみことにいてゝはの給はねとおほしわたるめりしをその御ほいかなふへきさまにうけ給はる事とも侍しにかくてさふらふ人ともゝうれしきことに思たまへいそきかのつくは山もからうして心ゆきたるけしきにてわたらせ給はんことをいとなみ思給へしに心えぬ御せうそこ侍けるにこのとのゐつかふまつるものゝ女はうたちらうかはしかなりなといましめおほせらるゝことなど申てものと心えすあらくしきはる中人ともあやしきさまにとりなしきこゆることとも侍しをそのゝちひさしう御せうそこなとも侍らざりしに心うき身なりとのみいはけなかりし程よりおもひしるを人かすにいかてみなさんとのみよろつに思ひあつかひ給はゝ君の中くゝなることの人わらはれになりてはいかに思ひなけかなとおもむけてなんつねになけき給しそのすちよりほかになにことをかと思給へよるにたへ侍らすなむおになとのかくしきこゆともいさゝかのころところも侍なる物をとてなくさまもいみしけれはいかなることにかとまきれつる御心もうせてせきあへ給はすわれはこゝろに身をもまかせすけむせうなるさまにもてなされたるありさまなれはおほつかなしとおもふおりもいまちかくて人の心をくましくめやすきさまにもてなしてゆくすゑなくをと思のとめつゝすくしつるをゝろかにみなし給つらんこそ中くゝわくるかたありけるとおほゆれいまはかくたにいはしとおもへとまた人のきかはこそあらめ宮の御ことよいつよりありそめけんさやうなるにつけてやいとかたはに人の心をまとはし給宮なれはつねにあひみたてまつらぬなけきに身をもうしなひ給へるとなむおもふなをいへわれにはさらになかくしそとの給へはたしかにこそはきゝ給てけれといとくおしくていと心うきことをきこしめしけるにこそは侍なれ右近もさふらはぬおりは侍らぬものをとなかめやすらひてをのつからきこしめしけんこの宮のうへの御かたにしのひてわたらせ給へりしをあさましく思ひかけぬほどにいりおはしたりしかといみしきことをきこえさせ侍ていてさせ給にきそれにおち給てかのあやしく侍しところにはわたらせ給へりしなりそのゝちをとにもきこえしとおほしてやみにしをいかてかきかせ給けんたゝこのきさらきはかりよりをとつれきこえ給へし御ふみはいとたひく侍しかと御らんしいるゝことも侍らざりきとかたしけなくうたであるやうになとそ右近なときこえさせしかはひとたひふたゝひやきこえさせ給けむそれよりほかの事はみ給へすときこえさすかうそいはむかししめてとはむもいとおしくてつくくとうちなかめつゝ

宮をめつらしくあはれとおもひきこえてもわかたをさすかにをろかにおもは
さりけるほとにいとあきらむるところなくはかなけなりし心にてこの水のちか
きをたよりにて思よるなりけんかしわかこゝにさしはなちすゑさらましかはい
みしくうきよにふともいかてかかならすふかきたにをもとめてましといみ
しうき水のちきりかなとこのかはのうとましうおほさるゝこといとふかしと
しころあはれと思そめたりしかたにてあらき山路をゆきかへりしもいまはまた
心うくてこのさとの名をたにえきくましき心地し給宮のうへのゝたまひはしめ
しひとかたとつけそめたりしさへゆゝしうたゝわかあやまちにうしなひつる人
なりと思もてゆくにはゝはのなをかるひたるほとにてのちのうしろみもいとあ
やしくことそきてしなしけるなめりと心ゆかす思つるをくはしうきゝ給になむ
いかに思らむさはかりの人のこにてはいとめてたかりし人をしのひたる事はか
ならすしもえしらてわかゆかりにいかなることのありけるならむとおもふな
るらむかしなとよろつにいとおしくおほすけからひといふことはあるましけれ
と御ともの人めもあれはのほり給はて御くるまのしちをめしてつまとのまへに
そゐ給ひけるもみくるしけれはいとしけきこのしたにこけをおましにてとはか
りる給へりいまはこゝをきてみむことも心うかるへしとのみゝめくらしたまひ
て

われも又うきふるさとをあれはてはたれやとりきのかけをしのはむあさり
いまはりしなりけりめしてこの法事のことをきてさせ給念仏そうのかすそへな
とせさせ給つみいとふかゝなるわさとおほせはかるむへきことをそすへき七日
くゝに経仏くやうすへきよしなどこまかにの給ていとくらうなりぬるにかへり
給もあらましかはこよひかへらましやはとのみなんあま君にせうそこせさせ給
へれといともくゝゆゝしき身をのみおもひ給へしつみていとゝものも思給へら
れすほれ侍てなむうつふし伏て侍ときこえていてこねはしゐてもたちより給は
すみちすからとくむかへとり給はすなりにけることくやしう水のをとのきこゆ
るかきりは心のみさはき給てからをたにたつねすあさましくてもやみぬるかな
いかなるさまにていつれのそのうつせにましろけむなとやるかたなくおほす
かのはゝ君は京にこうむへきむすめのことによりつゝしみさはけはれいのいゑ
にもえいかすすゝろなるたひゐのみして思なくさむおりもなきにまたこれもい
かならむとおもへとたいらかにうみてけりゆゝしければえよらすのこりの人ゝ
のうへもおほえすほれまとひてすくすに大将殿より御つかひしのひてありもの
おほえぬ心ちにもいとうれしくあはれなりあさましきことはまつきこえむと思

給へしを心ものとまらすめくらき心地してまいていかなるやみにかまとはれ
給らんとそのほどをすくしつるにはかなくてひころもへにけることをなんよの
つねなさもいと、おもひのとめむかたなくのみ侍るを思ひのほかにもなからへ
はすきにしなこりとはかならずさるへきことにもたつね給へなどこまかにかき
給て御つかひにはかのおほくらの大夫をそ給へりける心のかによろつを思つ
ゝとしころにさへなりにけるほとかならずしも心さしあるやうにはみ給はさり
けむされといまよりのちなにことにつけてもかならずわすれきこえしまたさや
うにを人しれす思をき給へをさなき人とも、あなるをおほやけにつかうまつら
むにもかならずうしろみ思へくなむなこと葉にもの給へりいたくしもいむま
しきけからひなれはふかうしもふれ侍らすなといひなしてせめてよひすゑたり
御返なくくかくいみしきことにしなれ侍らぬいのちを心うくおもふ給へなけ
き侍にかゝるおほせ事み侍へかりけるにやとなとしころはこゝろほそきあり
さまをみ給へなからそれはかすならぬ身のをこたりに思給へなしつゝかたしけ
なき御ひとことをゆくすゑなかくたのみきこえ侍しにいふかひなくみ給へはて
ゝはさとのちきりもいと心うくかなしくなんさまくゝにうれしきおほせことに
いのちのひ侍りていましはしなからへ侍らはなをたのみきこえ侍へきにこそと
思給ふるにつけてもめのまへのなみたにくれてえきこえさせやらすなむなとか
きたり御つかひになへてのろくなとはみくるしきほとなりあかぬ心ちもすへけ
れはかの君にたてまつらむと心さしてもたりけるよきはむさいのおひたちのお
かしきなとふくろにいてて車にのるほどこれはむかしの人の御心さしなりとて
をくらせてけりとのに御らんせさすれはいとすそろなるわさかなとの給ことは
には身つからあひ侍りたうひていみしくなくくゝよろつの事のたまひてをさな
きものとものことまでおほせられたるかいかしこきにまたかすならぬほと
はなか／＼いとはつかしう人になにゆへなとはしらせ侍らてあやしきさまとも
をもみなまいらせ侍りてさふらはせんとなむものし侍つるときこゆけにことな
ることなきゆかりむつひにそあるへけれとみかともさはかりの人のむすめた
てまつらすやはあるそれにさるへきにて時めかしおほさんは人のそしるへきこ
とかはたゝ人はたあやしき女よにふりにたるなとをもちゐるたくひおほかりか
のかみのむすめなりけりと人のいひなさんにもわかもてなしのそれにけかるへ
くありそめたらはこそあらめひとりのこをいたつらになしておもふらんおやの
心に猶このゆかりこそおもたゝしかりけれと思しるはかりよいはかならずみ
すへきことゝおほすかしこにはひたちのかみたちなからきておりしもかくてゐ

給へることなむとはたつとしころいつくなむおはするなとありのまゝにも
しらせさりければはかなきさまにておはすらむと思ひいひけるを京になどむか
へ給てのちめいほくありてなとしらせむとおもひけるほとにかゝれはいまはか
くさんもあひなくてありしさまなくゝかたる大將殿の御ふみもとりにてゝみ
すれはよき人かしこくしてひなひものめてする人にておとろきをくしてうちか
へしゝゝいとめてたき御さいはいをすてうせ給にける人かなをのれもとの人
にてまいりつかうまつれともちかくめしつかふこともなくいとけたかくおもは
するとのなりわかきものとものおほせられたるはたのもしきことになん
なとよろこぶをみるにもましておはせましかはと思にふしまろひてなかるかみも
いまなんうちなきけるさるはおはせしよには中ゝかゝるたくひの人しもたつ
ね給へきにしもあらずかしわかあやまちにてうしなひつるもいとおしなくさめ
むとおほすよりなむ人のそしりねんころにたつねしとおほしける四十九日のわ
さなとせさせ給にもいかなりけんことにかはとおほせはともかくてもつみう
ましきことなれはいとしのひてかのりしのてらにてせさせ給ける六十そうのふ
せなとおほきにきてられたりはゝ君もきゑてことともそへたり宮よりは右近
かもとにしろかねのつほにこかねいれて給へり人みとかむばかりおほきなるわ
さはえし給はす右近か心さしにてしたりければ心しらぬ人はいかてかくなむな
といひけるとのゝ人ともむつまじきかきりあまた給へりあやしくをともせさり
つる人のはてをかくあつかはせ給たれならむといまおとろく人のみおほかるに
ひたちのかみきてあるしかりおるなんあやしと人々みける少將のこうませてい
かめしきことせさせむとまとひいゑのうちになきものはすくなくもろこししら
きのかさりをもしつへきにかきりあればいとあやしかりけりこの御ほうしのし
のひたるやうにおほしたれとけはひこよなきをみるにいきたらましかはわか身
をならふへくもあらぬ人の御すくせなりけりと思ふ宮のうへもす経し給ひ七そ
うのまへの事せさせ給けりいまなむかゝる人もたまへりけりとみかとまでもき
こしめしてをろかにもあらさりける人を宮にかしこまりきこえてかくしをき給
たりけるいとおしとおほしけるふたりの人の御心のうちふりすかなしくあやに
くなりし御思ひのさかりにかきたえてはいといみしければあたる御心はなく
さむやなと心み給こともやうゝありけりかのとはかくとりもちてなにやか
やとおほしてのこりのひとをはくゝませ給ても猶いふかひなき事をわすれかた
くおほすきさいの宮の御きやうふくのほとはなをかくておはしますに二の宮な
むしきふきやうになり給にけるをもゝしうてつねにしもまいり給はすこの宮

はさうくしくものあはれるまゝに一品の宮の御かたをなくさめところにし給よき人のかたちをもえまほにみ給はぬのこりおほかり大将殿のからうしていとしのひてかたらはせ給こさい将の君といふ人のかたちなどもきよけなり心はせあるかたの人とおほされたりおなしことをかきならすつまをとちをとも人にはまさりふみをかきものうちひたるもよしあるふしをなむそへたりけるこの宮もとしころいといたき物にし給てれいのひやふり給へとなかさしもめつらしけなくはあらむと心つよくねたきさまなるをまめ人はすこし人よりことなりとおほすになんありけるかくものおほしたるもみしりければしのひあまりてきこえたり

あはれるこゝろは人にをくれねとかすならぬ身にきえつゝそふるかへたらはとゆへあるかみにかきたりものあはれるゆふ暮しめやかなるほどをいよくをしはかりていひたるもにくからす

つねなしとこゝらよをみるうき身たに人のしるまてなけきやはするこのよ

ろこひあはれなりしおりからもいとゝなむなといひにたちよりたまへりいとはつかしけにものくしくしけにてなへてかやうになともならし給はぬ人からもやむことなきにいとものはかなきすまゐなりかしつほねなといひてせはくほどなきやりとくちにより給へるかたはらいたくおほゆれとさすかにあまりひけしてもあらていとよきほとにものなともきこゆみえし人よりもこれは心にくきけそひてもあるかななとてかくいてたちけんさるものにて我もおいたらしものをとおほす人しれぬすちはかけてもみせ給はすはちすの花のさかりに御はかうせらる六条院の御ためむらさきのうへなとみなおほしわけつゝ御経仏などくやうせさせ給ていかめしくたうとくなんありける五巻の目などはいみじきものなりければこなたかなた女はうにつきてまいりてものみる人おほかりけりいつかといふあさゝにはてゝみたうのかさとりさけ御しつらひあらたむるにきたのひさしもさうしとははなちたりしかはみないりたちてつくろふほとにしのわた殿にひめ宮おはしましけりものきゝこうして女はうものをくくつほねにありつゝ御まへはいと人すくなゝるゆふ暮に大将殿なをしきかへてけふまかつるそうの中にならすの給へきことあるによりつりとのかたにおはしたるにみなまかてぬれはるけのかたにすゝみ給て人すくなゝるにかくいふさい将の君などかりそめにき丁などはかりたてゝうちやすむうへつほねにしたりこゝにやあらむ人のきぬのをとすとおほしてめたうのかたのさうしのほそくあきたるよりやらみ給へはれいさやうの人のゐたるけはひにはすはれくしくしつらひたれ

は中くき丁ものたてちかへたるあはひよりみとをされてあらはなりひをものゝふたにきてわたるとてもてさばく人々おとな三人はかりわらはといたりからきぬもかきみもきすみなうちとけたれはおまへとはみ給はぬにしろきうすものゝ御そきかへ給へる人のてにひをもちなからかくあらそふをすこしゑみ給へる御かほいはむかたなくうつくしけなりいとあつさのたへかたき日なればこちたき御くしのくるしうおほさるゝにやあらむすこしこなたになひかしてひかれたるほとたとへんものなしこゝらよき人を見あつむれとにるへくもあらざりけりとおほゆ御まへなる人はまことにつちなとの心ちそするを思ひしつめてみればきなるすゝしのひとへうすいろなるもきたる人のあふきうちつかひたるなどよいあらむはやとふとみえてなか／＼ものあつかひにいとくるしけなりたゝさなからみ給へかしとてわらひたるまみあひ行つきたりこゑきくにその心さしの人とはしりぬる心つよくわりて手ことにもたりかしらにうちをきむねにさしあてなとさまあしうする人もあるへしこと人はかみにつゝみて御まへにもかくてまいらせたれといとうつくしき御てをさしやり給てのこはせ給いなもたらししくむつかしとの給御こゑいとほのかにきくもかきりもなくうれしまいとちいさくおはしましゝほとにわれものゝ心もしらてみたてまつりしときめてたのちこの御さまやとみたてまつりしそのゝちたえてこの御けはひをたにかきりつるものをいかなる神仏のかゝるおりみせ給へるならむれいのやすからすものおもはせむとするにやあらむとかつはしつ心なくてまもりたちたるほとにこなたのたいのきたおもてにすみけるけらう女はうのこのさうしはとみのことにてあけなからおりにけるをおもひいてゝ人もこそみつけてさはかるれとおもひければまとひいるこのなをしすかたをみつくるにたれならんと心さはきてをのかさまみえんこともしらすすのこよりたゝきにくれはふとたちさりてたれともみえしすき／＼しきやうなりとおもひてかくれ給ひぬこのおもとはいみしきわさかなみき丁をさへあらはにひきなしてけるよ右の大殿の君たちならんうとき人はたこゝまでくへきにもあらすものゝきこゑあらはたれかさうしあけたりしとかならすいてきなんひとへもはかまもすゝしなめりとみえつる人の御すかたなればえ人もきゝつけ給はぬならんかしと思こうしてをりかの人はやう／＼ひしりになりし心をひとふしたかへそめてさま／＼なるもの思人ともなるかなそのかみよをそむきなましかはいまはふかき山にすみはてゝかく心みたれましやはなとおほしつゝくるもやすからすなとてとしころみたてまつらはやと思つらんなか／＼くるしうかひなかるへきはさにこそとおもふつとめておき給

へる女宮の御かたちいとおかしけなめるはこれよりかならずまざるへきことかはとみえなからさらに、給はすこそありけれあさまじきまでてにえもいはさりし御さまかなかたへは思なしかおりからかとおほしていとあつしやこれよりうすき御そたてまつれをんなはれいならぬものきたるこそ時／＼につけておかしけれとてあなたにまいりて大式にうす物のひとへの御そぬひてまいれといへとの給御まへなる人はこの御かたちのいみしきさかりにおはしますをもてはやしきこえ給とおかしうおもへりれいのねんすし給わか御かたにおはしましなとしてひるつかたわたり給へれはの給つる御そみき丁にうかけたりなそこはたてまつらぬ人おほくみるときなむすきたるものきるはうそくにおほゆるた、いまはあえ侍なんとてつからきせたてまつり給御はかまもきのふのおなしくれなるなり御くしのお、さすそなどはをとり給はねとなをさま／＼なるにやにるへくもあらずひめして人々にわらせ給とりてひとつたてまつりなとし給心のうちもおかしゑにかきてこひしき人みる人はなくやはありけるましてこれはなくさめむに、けなからぬおほむほとそかしとおもへときのふかやうにてわれましりゐ心にまかせてみたてまつらましかはとおほゆるに心にもあらずうちなけれぬ一品宮に御ふみはたてまつり給やときこえ給へはうちにありし時うへのさの給しかはきこえしかとひさしうさもあらずとの給た、人にならせ給にたりとてかれよりもきこえさせ給はぬにこそは心うかなれいまおほ宮の御まへにてうらみきこえさせ給とけいせんとの給いか、うらみきこえんうたてとの給へはけすになりたりとおほしおとすなめりとみれはおとろかしきこえぬとこそはきこえめとの給その日はくらしてまたのあしたにおほ宮にまいり給れいの宮もおはしけり丁子にふかくそめたるうす物のひとへをこまやかなるなをしにき給へるいとこのましけなる女の御身なりのめてたかりしにもをとらすしろくきよらにて猶ありしよりはおもやせ給へるいとみるかひありおほえ給へりとみるにもまつ恋しきをいとあるましきこと、しつむるそた、なりしよりはくるしきゑをいとおほくもたせてまいり給へりける女はうしてあなたにまいらせ給てわたらせ給ぬ大將もちかくまいりより給て御はかうのたうとく侍しこといにしへの御ことすこしきこえつ、のこりたるゑみ給ついてにこのさとにものし給みこの雲のうへはなれて思くし給へるこそいとおしうみ給ふれひめ宮の御かたより御せうそこも侍らぬをかくしなさまり給へるにおほしすてさせ給へるやうにおもひて心ゆかぬけしきのみ侍るをかやうのものと／＼ものせさせはなむなにかしかおろしてもてまからんはたみるかひも侍らしかしとの給へはあやしく

なとてかすてきこえ給はむうちにてはちかゝりしにつきてとき／＼もきこえ給
めりしをとろ／＼になり給しおりにとたえ給へるにこそあらめいまそゝのか
しきこえんそれよりもなとかはときこえ給かれよりはいかてかはもとよりかす
まへさせ給はさらむをもかくしたしくてさふらふへきゆかりによせておほしめ
しかすまへさせ給はんをこそうれしくは侍へけれましてさもきこえなれ給にけ
むをいますてさせ給はんはからきことに侍りとけいせさせ給をすきはみたるけ
しきあるかとおほしかけさりけりたちいてゝひとよの心さしの人にあはんあ
りしわたのもなくさめにみむかしとおほして御まへをあゆみわたりてにしさ
まにおはするをみすのうちの人は心ことによくいすけにいとさまよくかきりな
きもてなしにてわたとのゝかたはひたりのおほとのゝ君たちなどいでものいふ
けはひすればつまとのまへにゐ給ておほかたにはまいりなからこの御かたのけ
さむに在ることのかたく侍れはいとおほえなくおきなひはてにたる心ちし侍を
いまよりはとおもひおこし侍てなんありつかすわかき人ともそおもふらんかし
とおひの君たちのかたをみやり給いまよりならはせ給こそけにわくならせ給
ならめなどはかなきことをいふ人ゝのけはひもあやしうみやひかにおかしき御
かたのありさまにそあるその事となけれとよの中の物かたりなとしつゝしめや
かにれいよりはゐ給へりひめ宮はあなたにわたらせ給にけり大宮大将のそなた
にまいりつるはとど給御ともにまいりたる大納言の君こさい将の君にものゝ
給はんとにこそはゝめりつれときこゆるにれいまめ人のさすかに人に心とゝ
めて物かたりするこそ心ちをくれたらむ人はくるしけれ心の程もみゆらんかし
こさい将などはいとうしろやすしとの給ひて御はらからなれとこの君をは猶は
つかしく人もよういなくてみえさらむかしとおほいたり人よりは心よせ給てつ
ほねなどにたちより給へし物かたりこまやかにし給てよふけてゐて給おり／＼
も侍れとれいのめなれたるすちには侍らぬにや宮をこそいとなさけなくおはし
ますと思ひて御いらへをたにきこえす侍めれかたしけなきことゝいひてわらへ
は宮もわらはせ給ていとみくるしき御さまを思ひしこそおかしけれいかてか
ゝる御くせやめたてまつらんはつかしやこの人ゝもとの給ふいとあやしきこと
をこそきゝ侍しかこの大将のなくなし給てし人は宮の御二条のきたのかたの御
おとうとなりけりことはなるへしひたちのさきのかみなにかしかめはをはと
もはゝともいひ侍なるはいかなるにかその女君に宮こそいとしのひておはしま
しけれ大将とのやきゝつけ給たりけむにはかにむかへ給はんとてまもりめそへ
などこと／＼しくし給けるほとに宮もいとしのひておはしましなからえいらせ

給はすあやしきさまに御むまなからたゝせ給つゝ、そかへらせ給ける女も宮を思きこえさせけるにやにはかにきえうせにけるをみなけたるなめりとてこそめのとなどやうの人とはなきまとひ侍れるときこゆ宮もいとあさましとおほしてたれかさることはいふとよいとおしく心うきことかなさはかりめつらかならむことはをのつからきこえありぬへきを大将もさやうにはるはてよの中のはななくいみしきことかくうちの宮のそうのいのちみしかゝりけることをこそいみしうかなしと思ての給しかとの給いさやけすはたしかならぬことをいひ侍ものをとおもひ侍れとかしに侍けるしもわらはのたゝこのころさい将かさにいてまうてきてたしかなるやうにこそいひ侍れかくあやしうてうせ給へること人にきかせしおとろゝしくをそきやうなりとていみしくかくしける事ともとてさてくはしくはきかしたてまつらぬにやありけんときこゆれはさらにかゝること又まねふなどいはせよかゝるすちに御身をもゝてそこなひ人にかかるく心つきなき物に思はれぬへきなめりといみしうおほいたりそのゝちひめ宮の御かたより二の宮に御せうそこありけり御てなどのいみしうゝつくしけなるをみるにもいとうれしくかくてこそとくみるへかりけれとおほすあまたおかしきゑともおほく大宮もたてまつらせ給へり大将殿うちまさりておかしきともあつめてまいらせ給せりかはの大将のとを君の女一の宮思かけたる秋のゆふ暮に思わひていてゝいきたるかたおかしうかきたるをいよく思よせらるかしかはかりおほしなひく人のあらましかはと思ふ身そくちおしき

萩の葉に露ふきむすふ秋風もゆふへそわきて身にはしみけるとかきてもそ

へまほしくおほせとさやうなる露はかりのけしきにてももりたらいとわつらはしけなるよなれはゝかなきこともえほのめかしいつましかくよろつになにやかやとものを思のはてはむかしの人のものし給はましかはいかにもゝほかさまに心わけましやときのみかとの御むすめを給ともえたてまつらさりましたさ思人ありときこしめしなからはかゝることもなからましをなを心うくわか心みたり給けるはしひめかなと思ひあまりては又みやのうへにとりかゝりてこひしうもつらくもわりなきことそおこかましきまてくやしきこれに思わひてさしつきにはあさましくてうせにし人のいと心をさなくとゝこほるところなかりけるかろゝしさをはおもひなからさすかにいみしものをおもひいりけんほとわけしきれいならずと心のおにゝなけきしつみてゐたりけんありさまをきゝ給しもおもひいてられつゝをもりかなるかたならてたゝ心やすくらうたききたらひ人にてあらせむと思ひしにはいとらうたかりし人をおもひもていけは宮

をもおもひきこえし女をもうしとおもはしたゝわかありさまのよつかぬをこた
りそなどなめいり給とき〱おほかり心のとかにさまよくおはする人たにか
ゝるすちには身もくるしき事をのつからましるを宮はましてなくさめかねつ
ゝかのかたみにあかぬかなしさをもの給いつへき人さへなきをたいの御かたは
かりこそはあはれなどの給へとふかくもみなれ給はさりけるうちつけのむつひ
なれはいとふかくしもいかてかはあらむまたおほすまゝにこひしやいみしやな
との給はんにはかたはらいたければかしこにありししゝうをそれいのむかへさ
せ給けるみな人ともはいきちりてめのとゝこの人ふたりなんとりわきておほし
たりしもわすれかたくてしゝうはよそ人なれとなをかたらひてありふるによつ
かぬかはのをともうれしきせもやあるとたのみしほとこそなくさめけれ心うく
いみしくものおそろしくのおおほえて京になんあやしきところにこのころきて
ゐたりけるたつね給ひてかくてさふらへとの給へは御心はさるものにて人々
のいはむこともさるすちの事ましりぬるあたりはきゝにくきこともあらむと
おもへはうけひきゝこえすきさいの宮にまいらむとなんおもむけたれはいとよ
かなりさて人しれすおほしつかはんとの給はせけり心ほそくよるへなきもなく
さむやとしてしたよりもとめまいりぬきたなくてはよろしきけらうなりと
ゆるして人もそしらす大将とのもつねにまいり給をみるたひことにものゝみ
あはれなりいとやむことなきものゝひめ君のみまいりつとひたるみやと人も
いふをやう〱めとゝめてみれとみたてまつりし人にゝたるはなかりけりと
思ありくこのはるうせ給ぬるしきふきやうの宮の御むすめをまゝはゝのきた
のかたことにあひおもはてせうとのむまのかみにて人からもことなることな
き心かけたるをいとおしうなとも思たらてさるへきさまになんちきるときこし
めすたよりありていとおしうちゝ宮のいみしくかしつき給ける女君をいたつら
なるやうにもてなさんことなどの給はせけれはいと心ほそくのみおもひなけき
給ありさまにてなつかしうかくたつねの給はするをなと御せうとのしゝうもい
ひてこのころむかへとらせ給てけりひめ宮の御くにいてこよなからぬ御ほと
の人なれはやむ事なく心ことにてさふらひ給かきりあれば宮の君なとうちいひ
てもはかりひきかけ給そいとあはれなりける兵部卿宮この君はかりやこひしき
人に思よそへつへきさましたらむちゝみこははらからそかしなとれいの御心は
人をこひ給につけても人ゆかしき御くせやまていつしかと御心かけ給てけり大
将もとかしきまでもあるわさかなきのふけふといふはかり春宮にやなとおほし
我にもけしきはませ給きかしかくはかなきよのおとろへをみるには水のそこに

身をしつめてもとかしからぬわさにこそなとおもひつゝ人よりは心よせきこえ給へりこの院におはしますをはうちよりもひろくおもしろくすみよきものにしてつねにしもさふらはぬともゝみなうちとけすみつゝはるゝとおほかるたにともらうわたとのにみちたり左大臣とのむかしの御けはひにもおとらすへてかきりもなくいとなみつかうまつり給いかめしうなりたる御そうなれはなかくゝいにしへよりもいまめかしきことはまさりてさへなむありけるこの宮れいの御こゝろならは月ころのほとにいかなるすきことゝもをして給はましこよなくしつまり給て人めにすこしおいなをり給かなとみゆるをこのころそ又宮の君に本上あらはれてかゝつらひありき給けるすゝしくなりぬとて宮うちにまいらせ給なんとすれはあきのさかり紅葉のころをみさらんこそなとわかき人ゝはくちおしかりてみなまいりつとひたるころなり水になれ月をめてゝ御あそひたえすつねよりもいまめかしければこの宮そかゝるすちはいとこよなくもてはやし給あさゆふめなれてもなをいまみむはつ花のさまし給へるに大将の君はいとさしもいりたちなとし給はぬほとにてはつかしう心ゆるひなきものにみな思たりれいのふたところまいり給ておまへにおはするほとにかのしゝうはものよりのそきたてまつるにいつかたにもゝよりてめてたき御すくせみえたるさまにてよにそおはせましかしあさましくはかなく心うかりける御心かなゝと人にはそのわたりの事かけてしりかほにもいはぬことなれは心ひとつにあかすむねいたく思宮はうちの御物かたりなとこまやかにきこえさせ給へはいまひとゝころはたちいて給みつけられたてまつらししはし御はてをもすくさす心あさしとみえたてまつらしとおもへはかくれぬひんかしのわたとのにあきあひたるとくちに人ゝあまたるものかたりなとする所におはしてなにかしをそ女はうはむつましとおほすへき女たにかく心やすくはよもあらしかしさすかにさるへからんことをしへきこえぬへくもありやうゝみしり給へかめれはいとなんうれしきとの給へはいといらへにくゝのみおもふなかに弁のをもとゝてなれたるおとなそもむつましく思きこゆへきゆへなき人のはちきこえ侍らぬにやものはさこそはなかくゝ侍めれかならずそのゆへたつねてうちとけ御らんせらるゝにしも侍らねとかはかりおもなくつくりそめてけるみにおはささんもかたはらいたくてなむときこゆれははつへきゆへあらしと思さため給てけるこそくちおしけれなどの給つゝみれはからきぬはぬきすへしをしやりうちとけて手習しけるなるへしすゝりのふたにすへて心もとなきはなのすゑたおりてもてあそひけりとみゆかたへはき丁のあるにすへりかくれあるはうちそむきおしあげたるとのかた

にまきはしつゝゐたるかしらつきとも、おかしとみわたし給てすゝりひきよせて

女郎花みたる、野辺にましるとも露のあなをわれにかけめや心やすくはおほさてとたゝこのさうしにうしろしたる人にみせ給へはうちみしろきなどもせすのとやかにいとゝく

花といへはなこそあたなれをみなへしなへての露にみたれやはするとかきたるてたゝかたそはなれとよしつきておほかためやすければたれならむとみ給いままうのほりけるみちにふたけられてとゝこほりいたるなるへしとみゆ弁のをもとはいとけさやかなるおきなことにくゝ侍りとて

旅ねして猶心みよをみなへしさかりの色にうつりうつらすさてのちさためきこえさせんといへは

宿かさはひとよはねなん大方の花にうつらぬこゝろなりともとあればなに

かはつかしめさせ給おほかたのへのさかしらをこそきこえさすれといふはかなきことをたゝすこしのたまふも人はのこりきかまほしくのみ思きこえたり心なしみちあけはへりなんよわきてもかの御ものはちのゆへかならずありぬへきおりにそあめるとてたちいて給へはをしなへてかくのこりなからむと思ひやり給こそ心うけれとおもへる人もありひんかしのかうらむにおしかゝりてゆふかけになるまゝに花のひもとおまへのくさむらをみわたし給ものゝみあはれなるになかについてはらわたたゆるは秋の天といふ事をいとしのひやかにすんしつゝゐ給へりありつるきぬのをとなひしるきけはひしてもやの御さうしよりとほりてあなたに在るなり宮のあゆみをはしてこれよりあなたにまいりつるはたそとゝひ給へはかの御かたの中将の君ときこゆなりなをあやしのわさやたれにかとかりそめにもうち思ふ人にやかてかくゆかしけなくきこゆるなさしよといとおしくこの宮にはみなめなれてのみおほえたてまつるへかめるもくちおしおりたちてあなかなる御もてなしに女はさもこそまけたてまつらめわかさもくちおしうこの御ゆかりにはねたく心うくのみあるかないかてこのわたりにもめつらしからむ人のれいの心いれてさはき給はんをかたらひとりてわか思ひしやうにやすからすとも思はせてまつらんまことに心はせあらむ人はわかかたにそよるへきやされとかたいものかな人の心はと思ふにつけてたいの御かたのかの御ありさまをはふさはしからぬものに思きこえていとひんなきむつひになりゆくかおほかたのおほえをはくろしと思ながら猶さしはなちかたきものにおほししりたるそありかたくあはれなりけるさやうなる心はせある人こゝらの

中にあらむやいらちてふかくみねはしらぬそかしねさめかちにつれつれなる
をすこしはすきもならははやなと思ふにいまはなをつきなしれいのにしのわた
とのをありしにならひてわさとおはしたるもあやしひめ宮よるはあなたにわた
らせ給ければ人々月みるとてこのわた殿にうちとけてものかたりするほどなり
けりさうのこといとなつかしうひきすさむつまをとおかしうきこゆおもひかけ
ぬによりおはしてなかくねたましかほにかきならし給との給にみなおとろか
るへけれどすこしあけたるすたれうちおろしなともせずおきあかりてにるへき
このかみや侍へきといらふるこゑ中将のおもと、かいひつるなりけりまろこ
そ御は、かたのおちなれとはかなきことをの給てれいのあなたにおはしますへ
かめりななにわさをかこの御さとするの程にせさせ給なとあちきなくとひ給い
つくにてもなにことをかはた、かやうにてこそはすくさせ給めれといふにおか
しの御身の程やと思ふにすゝろなるなけきのうちわすれてしつるもあやしと思
よる人もこそとまきはしにさしいてたるわこんをた、さなからかきならし給
りちのしらへはあやしくおりにあふときくこゑなればき、にく、もあらねとひ
きはて給はぬをなか／＼なりと心いれたる人はきえかへり思ふわかは、宮もお
とり給へき人かはきさいはらときこゆはかりのへたてこそあれみかと／＼のお
ほしかしつきたるさまこと／＼ならさりけるを猶この御あたりはいとことなり
けるこそあやしけれあかしのうらは心にくかりける所かなとおもひつゝくる
事ともにわかすくせはいとやむことなしかしましてならへてもちたてまつらは
と思ふそいとかたきや宮の君はこの西のたいにそ御かたしたりけるわかき人々
のけはひあまたして月めてあへりいてあはれこれもまたおなし人そかしと思ひ
てきこえてみこのむかし心よせたまひしものをといひなしてそなたへおはしぬ
わらはのおかしきとのゑすかたにて二三人いて、ありきなしけりみつめてい
るさまともか、やかしこれそよのつねと思みなおもてのすみのまによりてう
ちこわつくり給へはすこしをとなひたる人いてきたり人しれぬ心よせなときこ
えさせ侍れは中／＼みな人きこえさせふるしつらむことをうひ／＼しきさまに
てまねふやうになり侍りまめやかになむことよりほかをもとめられ侍との給へ
は君にもいひつたへすさかしたちていとおもほしかけさりし御ありさまにつけ
てもこ宮の思きこえさせ給へりしことなと思給へいてられてなむかくのみおり
／＼きこえさせ給なり御しりうことをもよろこひきこえ給めるといふなみ／＼
の人めきて心ちなのさまやものうければもとよりおほしすつましきすちより
もいまはましてさるへきことにつけてもおもほしたつねなんうれしかるへき

うとうとう人つてなにてもてなさせ給は、えこそとの給にけにと思さはきて君をひきゆるかすめれはまつもむかしのとのみなかめらるゝにももとよりなとの給すちはまめやかにたのもしうこそいと人つてともなくいひなし給へるこゑいとわかやかにあい行つきやさしき所そひたりたゝなへてのかゝるすみかの人とおもはゝいとおかしかるへきをたゝいまはいかてかはかりも人にこゑきかすへきものとならひ給けんとなまうしろめたしかたちもいとなまめかしからむかしとみまほしきけはひのしたるをこの人そまたれいのかの御心みたるへきつまなめるとおかしうもありかたのよやと思ひゐ給へりこれこそはかきりなき人のかしつきおほしたて給へるひめ君又かはかりそおほくはあるへきあやしかりけることはさるひしりの御あたりに山のふところよりいてきたる人ゝのかたほなるはなかりけるこそこのはかなしやかろくしやなと思なす人もかやうのうちみるけしきはいみしうこそおかしかりしかとなにことにつけてもたゝかのひとつゆかりをそ思ひいて給けるあやしうつらかりけるちきりともをつくくと思つゝけなかめ給ゆふくれかけろふのものはかなけにとひちかふをありとみて手にはとられすみれは又ゆくゑもしらすきえしかけるふあるかなきかのとれいのひとりこち給とかや